

「アトピー性皮膚炎患者の薬物治療適正化に貢献する薬剤師業務改善のための研究」に参加いただくみなさんへ

愛知学院大学薬学部では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知学院大学薬学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学研究に関する倫理指針に関する倫理指針等を遵守し、胃の倫理に基づいて実施されることが認められた研究です。今回の研究は、対象となる方へ研究内容の情報を公開することが求められている研究です。もし、この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	アトピー性皮膚炎患者の薬物治療適正化に貢献する薬剤師業務改善のための研究
研究機関名	愛知学院大学薬学部
研究機関の長	村木 克彦
担当部署	臨床薬物動態学講座
研究責任者	松浦 克彦
研究の意義・目的	アトピー性皮膚炎は、増悪/寛解を繰り返し、掻痒を伴う湿疹を主病変とする慢性の疾患で、適切に薬物療法を行うことが大切です。我々は、患者さんにより良い薬物治療を提供するために薬剤師の業務を改善する取り組みを行っています。本研究では、アトピー性皮膚炎患者さんの薬物治療の状況を把握するために薬の知識、アドヒアランス、アトピー性皮膚炎の状況等について調査を行います。
対象となる方	アトピー性皮膚炎でいちき皮膚科を受診しファースト薬局にて薬を出された患者さん
研究の方法	ファースト調剤薬局東島店において薬剤師が業務の中で収集した情報を利用して、愛知学院大学薬学部臨床薬物動態学講座においてアドヒアランス、アトピー性皮膚炎の症状、薬の知識について解析し、評価する。
研究期間	2019年 臨床研究倫理委員会承認後 ～ 2020年 3月31日
研究に用いる資料・情報	患者さんの背景:年齢、性別、罹病期間など アドヒアランス:Morisky Medication Adherence Scale-8を用いる。 薬の知識:実際に処方されている薬の作用、副作用、使用方法について確認を行う。 アトピー性皮膚炎の症状:The Patient Oriented Eczema Measureを用いる。
外部への資料・情報の提供	個人情報を匿名化したのち、愛知学院大学薬学部に提供する。

資料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への情報の利用又は提供を希望しない方は、下記の問い合わせ先までお申し出ください。ただし、愛知学院大学へ情報提供を行う際は、個人が特定される情報を含まない形に加工するため、愛知学院大学薬学部へ情報提供後においては情報提供の取り消しは行えませんのでご了承ください。
その他	本研究は講座等の研究費で行う研究であり、利益相反に該当するような事例はございません。
問い合わせ先	<p>ファースト調剤薬局東島店 管理薬剤師 川島 昭徳 住所：岐阜市東島 3-9-24 電話番号：058-294-8001</p> <p>または 愛知学院大学薬学部臨床薬物動態学講座 松浦 克彦 住所：名古屋市千種区楠元町 1-100 電話番号：052-751-2561</p>

以上